

令和6年度 全国高校総体静岡県予選 大会展望

文： 中島 洋己

((一社)静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭)

令和6年度第72回全国高校総体静岡県予選が令和6年5月25日に藤枝明誠高校体育館他で開幕する。昨年から長年続いた決勝リーグ制を廃止しトーナメント制に変更、5位決定トーナメントと東海総体出場権を賭けた3位決定戦を行うレギュレーションとなり、上位チームでも最大5試合、2日目以降は1日1試合の実施となり、選手のコンディション調整がしやすい環境となった。26日に男子・雄踏総合体育館（雄踏アリーナ）・女子・浜松開誠館高校第2アリーナ（KAISEIKAN ARENA II）で行われる準々決勝を制した4校による準決勝と5位決定トーナメントが6月1日に袋井市・エコパアリーナで行われ、翌2日に同じくエコパで決勝戦と3位決定戦・5位決定戦が行われる。優勝校は8月3日に福岡県・福岡市総合体育館（照葉積水ハウスアリーナ）をメイン会場として開幕する全国高校総体（インターハイ）へ、上位3校が6月29日・30日に岐阜県岐阜市・岐阜メモリアルセンター（で愛ドーム・ふれ愛ドーム）で開催される東海高校総体への出場権を獲得する。

令和元年末から全世界で猛威をふるい続けた新型コロナウイルス感染症も感染症法上の5類相当に引き下げられてから1年、「アフターコロナ」対応での競技活動や大会運営が続いている。その中でもコロナやインフルエンザがなくなったわけではなく、選手・指導者・運営側そして応援する方々も引き続き十分な感染症対策を取りながら、大会に臨んでいただきたい。

今年度も例年同様、各ブロック総体優勝チームの所属都道府県に年末のウインターカップ追加出場枠が与えられることになり、東海総体優勝チームを輩出した県はウインター出場権が「増枠」となる。昨年は藤枝明誠が決勝で美濃加茂（岐阜）が仕掛けたトライアングルツーに苦しみながらもオーバータイムの末劇的勝利、県勢11年ぶりの東海総体優勝を飾り、ウインターカップ出場枠「プラスワン」をつかみ取り、その恩恵で10年ぶりに県勢男子2校（藤枝明誠・浜松学院）がウインターに出場した。他県も喉から手が出るほど欲しいウインター追加出場権、現に藤枝明誠は東海新人大会で美濃加茂の返り討ちに遭うなど今年も予断を許さない状況が続く。増枠を狙うためには静岡県もより強いチームを東海総体に送り込み、容易でないことを百も承知で書くがインターハイでも決勝まで昇りつめてウインターカップのさらなる追加出場枠を獲得する使命も担ってもらいたいと思う。

さらにこの大会は全日本選手権（オールジャパン）県予選の出場選考も兼ねており、上位2チームは8月31日・9月1日に静岡県バスケの聖地・静岡県武道館で行われる県代表決定トーナメント大会の出場権を獲得することはご承知の通りだが、今年8月に愛知県・名古屋市緑スポーツセンター、三重県・AGF 鈴鹿体育館にて3度目の開催となる「U18 日清食品東海ブロックリーグ 2024」への出場義務も負うこととなる。このリーグ戦は全国屈指の激戦区・東海ブロックの強豪校と連続して対戦する絶好の機会であり、チーム強化にとってはこれほど効果的な「良薬」はない。その証拠に一昨年に続き、昨年本県から出場した男女4校も新たに導入された同県対決も含めた貴重な経験を積み上げて4校ともウインター県予選決勝戦（決勝リーグ）の舞台に戻って来た。もちろんどのチームも今大会での勝利が最優先事項であるが、「強化・育成」とい

う長期的なチームビルディングを考えればこの大会への出場権も是非でも手に入れておきたいと思っているはずである。また今年から男子の各ブロックリーグに B. LEAGUE の下部組織である U18 クラブチームが 1 チーム参加することになった。高校チームがクラブチームと公式戦で対戦するのは初めてのことになる。普段絶対に交わることのない高校とクラブの初対決もこの大会に参加出来てこその特権となる。なお、昨年藤枝明誠が出場した「U18 日清食品トップリーグ」はすでに前年度上位 4 校の出場が決まっていて、残りの 4 校はインターハイや各ブロック総体の成績をポイント換算して後日発表される。このトップリーグはカテゴリーが変更になった国民体育大会（現・国民スポーツ大会）に代わり、「インターハイ」「ウインターカップ」と並ぶ「新・高校三冠」と呼ばれるようになった。これらのビッグイベントへの出場権もこの大会に臨む選手やコーチの士気を大いに高めていることに違いない。

昨年の大会を見ていると、トーナメント制になったことで優勝・全国を目指すチームは「絶対に負けが許されない」というさらなる緊張感の雰囲気が前面に漂っていた。決勝リーグ制の時は 1 敗しても得失点差で優勝、また全国総体出場枠が 2 枠あった時は 2 敗してもまだチャンスがあり、場合によっては負けているチームがストーリングして時間を稼いで全国出場が決まる、ということさえあった。しかしながらこれからは 1 敗も許されない戦い、たとえ 1 点差でも勝ち続ける以外全国への道はない。そういった意味での「ピリピリした」緊張感の半面、負けてしまったチームにも東海総体出場を賭けた 3 位決定戦、そしてウインター予選での県武道館メインコートにグッと近づく第 5 シード獲得のための 5 位決定戦などが待っていて、「転んでもタダでは起きない」不屈の精神で一つでも多くの勝利を目指すアスリートたちの熱い思いが伝わってきた。

なお、この大会展望執筆においては、毎回私の懐刀として職責を務めてくれている山口裕史県協会広報副委員長に加えて、今年から着任してくれた三宅凌県協会広報委員に多大な御尽力をいただいた。山口副委員長が私の右腕なら、三宅委員は左腕となって情報を収集してくれた。私事で大変恐縮だが、今年から「報道部(放送部)」の正顧問となったため NHK 放送コンテストや高文連の行事などが重なって例年以上に十分な戦力分析をすることが出来ない状況にある。そのような中でも毎回の大会展望を楽しみに待っていてくれる選手や保護者の皆様のために、私の分まで時間と労力をかけて情報収集に尽力してくださったお二人にこの場を借りて心から御礼を申し上げるとともに、取材の場や情報を提供してくださった関係者や私の質問に快く回答してくれた皆様にも心から感謝の意をお伝えしたい。

《出場・優勝等の連続・連覇表記について》

令和 2 年度にすべての「総体」が中止となったため、今回も優勝や出場回数を記載する際に一部実際の回数と年数の整合性が取れない部分が生じました。統一をはかるためにも今回は「年数」を基準にして記載させていただいたことを御了承下さい。一部大会の連続出場に関しては解釈の都合上「大会」を基準にしているものもあります。なお、連続記録や連覇に関しては大会中止分を考慮せず、「記録継続中」と解釈して記載させていただきました。

【男子】

今大会も県新人を圧倒的な強さで制した藤枝明誠の強さが群を抜き、独壇場となる雰囲気を感じさせるが、東海新人に出場した沼津中央や飛龍や県新人上位校の浜松学院・浜松開誠館などが鉄壁の牙城を崩すために猛迫する図式が展開される。

まずは左上のブロック、大会3連覇を狙う藤枝明誠を中心とした争いになる。そして準々決勝での藤枝明誠挑戦権を賭けて2回戦で浜松商業と静岡学園の戦いが予想される。県新人2回戦の再現カード、前回は1点差で静岡学園が勝利を掴んだ実力伯仲の両雄、初日屈指の好カードとなる。

藤枝明誠は昨冬のウインターでは前年覇者の開志国際（新潟）との死闘を制して3位、新チーム始動4週間で臨んだ県新人も圧倒的な強さで連覇、続く東海新人でも富田（岐阜）・桜丘（愛知）に連勝して臨んだ決勝戦・ウインターベスト8の美濃加茂との戦いで相手エースの藤田大輝と留学生エブナフェイバーの猛攻を止められず惜敗、準優勝に終わり連覇を逃した。どこの県も総合力の底上げがなされていて本県も危機感を持って強化に取り組む必要があるが、**金本鷹**監督は常に「目標は全国制覇、そして東海総体・インターハイを制して静岡県に3枠のウインター出場権をもたらしたい」と話しており、その言葉は全く大言壮語ではなく、地元愛にも満ちた「視野の広い説得力のある発言」である。春先の交歓大会 DAITO CUP・フェニックスカップでは大学や高校の強豪が集うなか、下級生を主力にチームとしての大いなるポテンシャルを披露、さらにGW中の能代カップでも駒大苫小牧・日本航空・東山・能代科学技術の強豪勢を破り準優勝、そして中部総体では得意とする速い展開のバスケットを見せるなど安定した戦いで大会18連覇を果たした。県総体でも圧倒的な強さと完成度の高いバスケットを見せて3連覇を達成する可能性が高い。見据えるその先には東海総体連覇、そして全国制覇であることは間違いない。

中心となるのは全国屈指のインサイド・209 cm **ボヌロードプリンスチノソ**。今年からゲームキャプテンを務めて、個人プレーだけでなく連係の核となるプレーも見られるようになった。チームメイトもさらに彼の特性を生かす仕掛けを見せてチームとして攻撃の幅が広がった。昨年は肩の脱臼など怪我に苦しんだが、コートに立てない間に寸暇を惜しんで取り組んだトレーニングが功を奏し、フィジカルが数段パワーアップ、最近ではガード顔負けの絶妙なアシストを見せるなどテクニックも一段上がった印象がある。天職のゴール下に関しては、東海新人決勝でナイジェリア時代からの幼馴染み・エブナフェイバーとド迫力のマッチアップ、ここぞの場面で見せる会心のスラムダンクも冴え渡り、格の違いを見せて24リバウンド・34得点を稼ぐ相変わらずの独壇場、能代カップでも優秀選手賞を受賞、県内広しといえども現在彼を止められる選手は浮かばない、そんな無双選手の一挙手一投足をエコパアリーナで再び見られるのが今から楽しみである。

ロードプリンスとともにチームを牽引するのが、昨年強豪クラブ・ゴットドア（兵庫）から鳴り物入りで入部、噂に違わないオールラウンドなプレーを見せて、さらには伸び続ける身長を利用した高さのプレーにも味が出てきた190 cm **野津洗創**。入学直後からスタメンに抜擢されこの一年間で多くの経験を積んでメンタル面も成長、プレーでは球際の泥臭いプレーに汗をかき、ポテンシャル十分でさらなる飛躍が期待できる。さらに今季はゲーム中の状況判断に磨きがかかり、まだまだ成長の余地があるスケールの大きい逸材、今後唯一の泣き所と言える好不調の波を克服出来れば先輩・赤間選手のような全国レベルのアスリートになれる可能性を秘めた選手である。

そして忘れてはならないのが、大怪我から復帰して不死鳥のようにコートに戻ってきたキャプテン・**野田凌吾**。昨年のウインターではマネージャーとしてベンチ入り、声とメンタルでチーム

を下支えしてきた。持ち前の球離れの良さと巧みなアシストが魅力、卓越したバスケIQで相手に流れを渡さない強みを持つ。この選手の復帰により、1 + 1 の連携プレーが3にも4にもなるくらいにチーム力の強化につながった。

その他にも、上背を補って余りあるほどの運動量と気の利いたプレーでチームを支え、数字に表れにくいところでの活躍が光る「一家に一台」便利屋プレーヤー・**篠原遼太**、昨年の日清トップリーグで覚醒、豊富な得点パターンで攻撃のリズムを作り、類まれな身体能力を持った天性のスコアラー・**檜垣奏太**、アウトサイドを小気味よく決めるシューター・**白崎上総**、シュートを狙う積極性に好感が持てる**福間聖也**、ポーカーフェイスとは裏腹にプレーは激しくむき出しの闘志で相手に向かい、時には泥臭いプレーを淡々とこなす必殺仕事人・**柴田陽**、ペネトレイトからチームのリズムを作る司令塔・群を抜く敏捷性（びんしょうせい）と水もこぼさない正確なハンドリングが持ち味の**高松悠季**、常に準備万端・いざ鎌倉に備え、コートに出れば3Pの雨を降らせるゴールメーカー**金子來樹**、入部即スタメンを勝ち取ったゴールデンルーキー・昨年までの大エース赤間が背負った12番を引き継ぎ、192cmの長身から放たれる高精度の3Pでゴールを射抜く**永田貴陸**、そしてロードプリンスとプレイングタイムを分け合いながらも中部総体決勝で途中出場、リバウンドやゴール下の攻防で体を張り14得点を稼ぎ出した新加入・ナイジェリアからの留学生200cm **アマーエマニュエルチネメルン**など戦力は群を抜き、全国トップレベルである。

またもう一つの大きな特色は、例年以上に新入生のリクルーティングが成功したことである。今年も全国大会出場経験のある多くの新入生が藤枝明誠の門を叩いた。先述の永田・エマニュエルだけでなく、Jr. ウィンターで全国ベスト8、年度末3月に行われた「Bリーグ U15 チャンピオンシップ」ではエーススコアラーとして優勝に貢献、大会MVP・大会ベスト5にも輝いた「まだ見ぬ大器」**渡辺聖**（横浜ビー・コルセアーズU15）はその大会の決勝で3P7本を含む36得点、特にクラッチタイムで得点を重ねるシュートセンスは高校の大先輩・藤井祐眞を彷彿させる。

その他にも、昨年の九州中学総体を制し、公立中学ながら香川全中でベスト8となり大会に旋風を巻き起こした長崎小々倉中学出身・冷静沈着なプレーと勝負強さが特徴の**高平爽平**、Jr. ウィンターにも出場した**野口練**（島根スサノオマジックU15）・**佐々木悠斗**（BBC・北海道）・**中島将之介**（INFINITY・山梨）・**金城零流**、**小森蒼斗**（B・FORCE 愛媛）・**富高脩大**（BLUE UNION・熊本）などまだまだ育成期ではあるが、フレッシュな新戦力のプレーが見られる可能性もあり楽しみも倍増である。これだけ選手層が厚くなるとチーム内での切磋琢磨や相乗効果が生まれることは間違いない。

昨年の県総体7位・**浜松商業**は西部総体準決勝で浜松開誠館に敗れたが3位決定戦の公立対決で最後まで粘る浜松西を9点差で振り切り3位を堅守した。特にこの試合ではエース・**宮本剛都**が素晴らしいオフェンス力を披露、試合を通じて終始得点を重ねつつ後半の勝負所でことごとく長距離砲を決める爆発力を発揮、チームに流れを一気に引き寄せた。奪った得点は3P5本を含む36点、いやはや超人の域である。私もこの選手と公式戦で対戦してコートレベルで見たが、シュートの軌道が落下点に入った直後急激にリングに吸い込まれていくのを見て驚愕した覚えがある。

もちろん宮本に負けない勝負強さで味方が勢いづく3Pを決められる**神谷将太郎**、攻め手に困った場面でも果敢に自らシュートチャンスを作り出す**白井力兜**、テクニクあるドリブルや粘り強い守備が魅力の**栗田頼乙**、そして大怪我を克服してスタメンに復帰・長身を生かしたインサイドプレーとキャリアで積み重ねた高いバスケセンスを持つ**枝村漱夕**などバランスの取れた戦

力で静岡学園に雪辱を期す。

対する県新人6位・**静岡学園**は中部総体準決勝で静岡商業に2点差で敗れたものの、3位決定戦ではフィジカルを生かしたインサイドへのアタックや貪欲なリバウンドから勢いに乗った速攻、ドライブからの合わせなどを多用して城南静岡の反撃を抑えて快勝、3位を勝ち取った。

この時期にしては珍しい下級生主体のチーム、中心となるのが188cmの恵まれた体格を十分に生かすプレーを見せる2年生・**内山直陽**。しなやかな体幹と長身という最大のアドバンテージに加えてジャンプ力もあり、リバウンドにも汗をかきアウトサイドにフラッシュしての3Pも放つ。試合を重ねるたびに何かを習得して成長する有望株、静岡学園をエコパに連れて行けるか彼の活躍次第、このプレッシャーを喜びに感じてプレーに結び付け、一段と成長した姿を見せて欲しい。

その他にも昨年鹿児島国体にも出場・チーム切り込み隊長として内外で得点を重ねる**大長真士**、柔軟性あふれるしなやかな身体を使ったプレーを見せる**小長井優磨**、そして最上級生としてチームを心身で牽引・途中出場した城南静岡戦では3P2本を含む10得点でキャプテンの面目躍如を果たした**味岡大斗**など新進気鋭なメンバーで浜松商業を返り討ちし、今年初となる藤枝明誠との対戦に挑みたい。

1回戦最大の注目カードは互いに地区予選6位「**静岡城北ー浜松湖南戦**」。ともに1月の県新人では初戦を突破して県ベスト16。小澤柚貴・新村俊樹・花村詩穂のアウトサイドシュートを武器に粘り、強いディフェンスと人とボールが常に動くオフェンスを展開する**静岡城北**と、4年ぶりの出場・リバウンドからの速攻を武器に一度の攻撃でオフェンスを終わらせない粘り強さが魅力、**池田蓮**がオフェンスを組み立てて**永渕睦斗**が力強いリバウンドでボールを奪いオフェンス機会を増やす**浜松湖南**と対戦は最後の残り1秒までもつれる展開になるだろう。

その他の注目選手として、小森蒼斗・古田愛礼・野田遼聖（藤枝明誠）、宮坂恒志・千葉勢太・伊藤拓海（浜松商業）、飯島鈴・清水優季・長谷川彰・大竹悠太・望月俊輔（富岳館）、望月健大・山本空・川端康太（静岡城北）、青木海岬・宮崎諒・羽田博理・南茂昌悟・日吉駿介・渡邊陽平・山口大翔・高杉理己（日大三島）、元野陽斗・木南晴義・片瀬巧・西ヶ谷優心・太田一平・安藤悠翔（静岡東）、久保蒼真・渡邊昊・山下敬太・金城光志朗・五條漱士・滝井蓮也・水上陽向・山田遼太・村上健太（静岡学園）、佐藤終・中井香維・宮木琉衣・犬塚就斗（浜松湖南）などを挙げたい。

左下のブロックは、西部総体決勝で雌雄を決した浜松開誠館と浜松学院の再戦が準々決勝で予想される。実現すれば今大会最大の注目のカードとなる。西部総体では浜松開誠館が7点差で辛くも勝利を勝ち取ったが、今回は勝利の女神はどちらに微笑むのだろうか。

西部王者・**浜松開誠館**は県新人ではブロック決勝で沼津中央に不覚を取ったが、その後浜松西・静岡学園に連勝して5位を堅持、西部総体でも永遠のライバル・浜松学院を下して3年ぶりの優勝を果たし今回は四隅位置から4年連続の東海総体出場、そして優勝して初のインターハイ出場も狙う。比較的身長の高い選手が揃うが、高さだけに頼らない緻密なバスケットを展開する。

中心となるのは191cm**工藤寧朗**。強豪チームと対峙する時にビハインドとなる高さを埋められる選手、特に力強いリバウンドは相手の脅威となる。ややスロースターターの傾向にあるのが気になるが、エンジン全開になったら手が付けられない強さと上手さを持ち合わせる。西部総体では緊張感あふれる大切な場面でも落ち着いて決めるフリースローの正確さが目につき、課題であ

ったメンタル面も大いなる成長を見せて一皮むけたトップアスリートに進化した。

キャプテン・**藤原柊**は個性派軍団をまとめ上げる玄人職人、外回りを任せ3Pやグッドパスを連発する。ミニバス時代からの竹馬の友・工藤との息の合った連携にも注目したい。昨年度の県協会U18 優秀選手・**高森カイル**は縦横無尽に動いてスペースを作り出し絶妙なタイミングでミートしてジャンプシュートに持っていく達人、まさに攻撃の起点となる。**北條隆稀**は新人戦後に急成長したホープ、持ち前の発するプレーに加え、高い身体能力で相手守備をかき乱して得点機会を創り出すプレーヤー。そして**吉田滯央**にも注目、攻撃面ではジャンパーと3Pを得意とするが、守備面では相手より一歩先にコースに入って機先を制し体を密着させドライブに行かせない未然のディフェンスを披露、是非実際にこの目で見て欲しい美技である。

補強面に目を向けると、昨年の香川全中でベスト 16、今年初めに名古屋市で開催された「U15 クラブバスケットボールゲームズ」では準優勝、そのメンバーの多くが入部したことは大いなる戦力アップとなった。その中でも注目は**後藤正規**監督の長男で姉も同じ浜松開誠館女子で活躍する**後藤大駕**。昨年の全中では大会最高身長 195 cmを生かした異次元のリバウンド支配で会場を大いに沸かせた。西部総体ではいきなりスタメン出場、地道にゴール下で奮闘して空中戦で得点やリバウンドを重ねた。1年生ながら今大会日本人最高身長のビッグマン、まだ粗削りなところもあるが将来静岡県の至宝、そして日の丸選手となりうる大器、温かい目でその成長を見守りたい。

その他にも、KAISEIKAN クラブとして出場した上記 U15 クラブ大会で月刊バスケットボール誌選定の「ベストシューター賞」にも選ばれた3Pシューター・**上村颯太**、全中準優勝の倉敷南中学からは**宇都宮大騎**、そして全中・Jr. ウィンターの二冠王・四日市メリノール学院中学からは**木村暁大**も入学、特に木村は後藤とともに西部総体スタメン出場を果たし、ステップとリズムで巧みにディフェンスをすり抜けてシュートまで持ちこむ技術を披露、これからさらにチーム開誠館のスタッフに鍛え抜かれて芽を伸ばしていくだろう。

対する**浜松学院**は新チーム始動1ヶ月で迎えた県新人で4位、まだ新チームとしての指針が十分定まらない中の見切り発車としては上出来の結果にも思われるが、常に向上心を持ちながら勝利を目指すオレンジ軍団は現状には満足していない。昨年も一つずつ順位を上げて県新人4位・県総体3位、そしてウィンター県予選で準優勝して全国までたどり着いた努力のチーム、雑草魂で今回もまずは2年連続の東海総体出場を目指す。

西部総体決勝では中盤以降の追い上げも実らず浜松開誠館に惜敗し準優勝に終わったが、コート上のスペースに走り込み、パスを回しつつフリーを作って得点を導くなど全員が広い視野で客観的に状況を見極めながら展開を読むチーム、個人技に頼らずチーム力でディフェンスをこじ開ける攻撃を仕掛けるバスケットで2年連続の東海総体、そして7年ぶりのインターハイ出場を狙う。中心となるのはともに国体選手の経験を持つ**石原弘幸**と**西垣玲央**。二人とも高いシュート力でフィニッシャーとなる得点源、石原は1年次から実戦経験を積み重ね、途中出場であっても瞬時に試合展開に順応し、送り出した指揮官の求める仕事を当たり前こなして期待に応える天才肌、綺麗な弧を描くドライブは絶品、今年のチームでは数少ない3Pシューター、そして県新人決勝リーグ3試合で56得点、西部総体決勝でも24点を決めた稀代のスコアラーである。西垣は天職としてポイントガードを任される名人、常に冷静沈着で的確な判断ができ、パスなのかドライブなのかシュートなのか、または自分が行くのか仲間を生かすのか、ブレインストーミングしながらプレーしているようにも見える。

末永蒼が持つ全中3位の輝かしいキャリアはあまりにも有名、18番はジャンプシュートだがどのプレーもそつなくこなす高いポテンシャルを持つ選手、県新人全試合にスタメン出場した戸

塚健太朗は元来中盤を任されていてミドルシュートで得点を重ねる選手、県新人・沼津中央戦で見せた鮮やかに決めた3Pは今でも私の心に深く残る。インサイドを任されるのは187cm鈴木友真。ゴール下という激戦区の中では決して大型選手とは言えないが、自分より長身選手相手でも強い精神力で負けずにゴール下を一意専心で守る姿が胸を打つ。自己犠牲をしてまでも仲間の持ち味を引き出しチームプレーに徹する献身的プレーヤーでもある。

上記5人が不動のスタメン、この他にも、短時間ながらウインターにも途中出場して堅守を見せた鈴木陽翔、ディフェンスに活路を見出す藤井惺楽、そして県新人は怪我で無念の欠場、その復調具合が気になるが戻ってくればこれほど頼もしい選手もいない185cm松本将虎などの陣容で、まずは浜松開誠館との再戦に是が非でも勝利したい。昨年のウインター県予選決勝リーグで対戦した時のような試合展開が再現できれば勝利はグッと近づくだらう。

その浜松学院が初戦で対戦するのは東部10位の伊豆中央。昨年の東部総体で敗れた富士宮西、東部新人で敗れた星陵に連勝、リベンジを果たして見事2年ぶりの県総体出場を決めた。粘り強い守備と時には1試合で二桁本数決まる3Pが持ち味のチーム、中心となるのは3年生の長友蓮と宮永智実。司令塔・長友は得点力のあるポイントガードで、粘り強いディフェンスとスピードが持ち味、キャプテン・宮永は3番位置から5番位置まで守れるユーティリティープレーヤー、ドライブからの得点力もあり頼れる大黒柱である。

エース海野伍希・シューター望月吹・テクニシャン高松天成などのスタメン勢だけでなく、ディープスリーも放つシューターでありウイングポジションでのミートシュートで相手の反撃の目を摘む攻撃力を持つ勝山海朋や激しい攻防が繰り広げられるゴール下でも半ば強引にシュートを決め切るタフネスが魅力の塩坂優斗など伏兵の活躍も目覚ましく、中部総体準決勝・藤枝明誠戦では5点差で敗れたものの最終Qまでリードを保つなど横綱を土俵際徳俵まで追い詰めた中部4位・城南静岡や、鍛え抜かれた強靱なフィジカルで今や東部を代表するトップアスリートに成長した栗林大寿を擁する東部5位・富士宮東もこのブロック。両者とも順調に勝ち上がればそれぞれ浜松学院・浜松開誠館と対戦する。強豪相手に一泡吹かせるような試合展開を期待したい。

その他の注目選手として、小野寺祐之・渡邊虎太郎・渡邊らい・岸川藍佑・永井理玖(浜松開誠館)・村上悠翔・工藤泰心・阪本圭亮・安井誠人・保角欣耶・レジュイバオ(三島南)、上村恭生・森川拓登・杉澤慧人・瀧内由馬・刈谷蓮・佐野琉生(富士宮東)、生子遥仁・佐野翔礼・和賀井翔哉(城南静岡)、清水凰多・塚本大輝・清水明日夢・増田好汰・近藤翔太・後藤彩杜(島田工業)、佐藤橙亜・河野結翔・野中慶人・渡邊空聖・雪山慶人・山本悠人(常葉大菊川)、柏木勇志(伊豆中央)、大山流輝・川原暖・宮澤政人(浜松学院)、濱津俊太・柏木勇志(伊豆中央)などを挙げたい。

右上のブロックは県新人で準優勝して8年ぶりの東海新人出場・東部総体では決勝で飛龍に辛酸を舐めたが優勝候補の一角である沼津中央と、中部新人3連覇中で中部総体でも準優勝した静岡商業が準々決勝で対戦することが予想される。両雄は一昨年・昨年と県総体2回戦で対決、一昨年は静岡商業、昨年は沼津中央が勝利を勝ち取った。今年も実現すれば3年連続となり、今回も互角の戦いが予想される。

東部総体準優勝・沼津中央は東部新人決勝で飛龍に8年ぶりの勝利を飾り、そのまま県新人で

も準優勝して8年ぶりに東海新人に出場、初戦でナイジェリア出身の留学生2人を擁す高山西に屈したが、新人戦以降の戦いぶりや戦力を見る限り、選手層という点では藤枝明誠の次はこのチームであろう。この春先、6年ぶりにアフリカからの留学生も加わりさらに戦力がアップ、新人戦で見たものとは一味違ったバスケが見られそうだ。

チームの特徴は徹底した前からのプレッシャーディフェンスを起点に足を使った素早い展開、中心となるのはキャプテンを任された司令塔・**内藤海夏人**。心身ともチームの大黒柱、誰よりも努力を惜しまず「練習は裏切らない」の言葉を証明するような選手、攻守でチームに数字に表れにくい部分でも多大な貢献度をもたらす。同じく外回りを任されているのはシューター・**小林吏駒**。精度の高い3Pが冴え渡った東海新人では3P3本を含む29得点、チーム得点の4割強を稼ぎ出した。クイックでスピードを生かした強気のドライブが魅力、調子の浮き沈みが少なくプレーに安定感があるのも彼の強みである。

新垣颯野は対照的に中に切れ込むドライブ派、スペースを見つけて中で勝機を見出す。フリースローも得意とし、頼り甲斐がある選手でもある。インサイドには長身選手が待ち構える。188cm**桐生武蔵**は内外問わず得点をはじき出せる得点源、高さを利したリバウンドだけでなく、アウトサイドにフラッシュしてアウトレットパスをもらってから放つ3P技術も圧巻、しかも高確率に決まるというから相手はお手上げである。ちなみに桐生、小林、内藤は新潟県の中学の同級生、言わずもがなの「阿吽の呼吸」で繰り広げられる連係プレーにも注目したい。

もう一人、モンゴルからの留学生・**エルデネサンエルデネバト**も昨年1年間プレーしてチームに順応、さらなる活躍が期待される。そしてこの盤石の布陣にダメ押しするかのよう貴重な戦力が加わった。ナイジェリアからの206cm留学生・**ハビブ・カリファ・アテーザ**。まだバスケ歴は浅いが器用にステップをこなすようになってきた。カリファが加わる前から県内レベルとしては高身長チームであったが、対藤枝明誠や東海地区の強豪相手には高さで競り負けることが多かった。次なるステップへの最大の懸念事項であったゴール下の高さという弱点が解消され総合力は一段と高まった。まだまだ粗削りなところもあり東部総体決勝では出場機会がなかったが、持ち味のリバウンドとブロックショットを武器に県新人・決勝リーグで54点も奪われた藤枝明誠のロードプリンスをどれだけ抑えられるのかも見ものである。チームメイトとの連携はこれからの課題ではあるが、県内公式戦でアフリカ系留学生同士がマッチアップするのも6年ぶりとなり、全国大会や東海大会では見慣れた光景ではあるが、これが県内でも見られることは喜ばしいことである。さらにモンゴル出身のエルデネバトは日本の中学校を卒業しており登録上は日本人扱いとなるため、エルデネバトとカリファの同時出場も可能である。外国籍の「オンザコートツ」は県内初となり、全国的に見てもそう多くはない。この光景が県内トップを決める試合で見られることも今から楽しみである。

その他にも、東海新人出場を決めた浜松学院戦で途中出場して11得点、リバウンド・ルーズボールという球際やアシスト・ナイスディフェンスなど泥臭いプレーに一所懸命体を張る**手塚晃生**、190cmの長身・**高木強臣**、東海新人で途中出場し得点を決めた**具志堅理大**、新チームの公式戦で全試合スタメン出場を果たしている**新屋彰人**、アンダーカテゴリーでのキャリアをこの世代でも発揮し始めた**前嶋天聖**など他チームもうらやむ厚い戦力で3年ぶりの東海総体出場、そして8年ぶりのインターハイ出場を狙う。そのためにも静岡商業戦が東海・全国への試金石となる。

中部総体準優勝・**静岡商業**は、中部新人3連覇で臨んだ県新人、2回戦で三島北に不覚を取りベスト16に終わった。今回は中部総体準決勝で静岡学園に2点差で競り勝ち、決勝戦でも藤枝明誠と好勝負を演じた。一昨年この大会で沼津中央に勝利してブロック決勝進出、エコパでの5位決定戦でも伊藤ハリー率いる浜松学院と熱戦を展開、敗れはしたものの堂々の県6位、大会に

旋風を巻き起こした。今回は一時的な旋風に終わらせずベスト4、そして約半世紀ぶりの東海総体を狙う。

中心は度々この展望でもプレーを絶賛し尽くした絶対的エース・市川昊。今回の藤枝明誠戦でも相手マークマンの留学生にも果敢にシュートを放ち得点を量産、県内でも数少ない「留学生相手に互角に勝負を挑める選手」である。時折見せる相手の不意を突いた3Pに加えて、1on1になった時に細かいフェイントを交えたステップとドライブで相手を翻弄し絶妙なリズムでシュートまで持っていく、いわゆる「比江島ステップ」を意識したプレーも見せてくれる一流選手、1試合でも多く県総体のコートでプレーを見たい花形選手である。

その市川を脇で支えるのがキャプテン・望月良依繁。1年次から実戦経験を多く積み、司令塔として広い視野から絶妙のタイミングで放たれるキラーパスは天賦の才能を強く感じさせる超美技である。

その他にも、中部総体決勝でも藤枝明誠の激しいブレスをかいくぐって3P5本を含む23得点、3Pが決まるシュート位置とタイミングを緻密に計算して打っているような感じさえするシューター・北堀遥大、果敢にペイントアタックを試みる突貫選手・齊藤遥人、途中出場した藤枝明誠戦で決めたバスケットカウントが記憶に新しい文谷虎斗、スタメンで起用され続けて監督が目指す得点力の高さを武器にしながらい堅い守りも強化するバスケットを体現し始めた佐野煌介・仲山柊志など個々の高い能力を生かしながらも状況に応じて速攻・遅攻を使い分けるバスケットと県内随一と言われる日々のシュート練習の成果で沼津中央との「決着戦」を制して48年ぶりのベスト4進出を果たしたい。その前に東部4位・韮山との対戦が予想される2回戦をきちんと乗り切って足元を固めたい。

その韮山は東部総体4位、昨年の県総体では静岡城北との激闘を制しベスト16、県新人では浜松西に敗れベスト16、今回は一つ上のステップベスト8を狙う。粘りのディフェンスからの速攻とプレーヤーとベンチが一体となり気迫のこもった全力プレーが特徴のチーム、1年次から実戦経験を重ねて監督の期待に応えながら大きく成長、ドリブル・リバウンド・3Pまで器用にこなせる非凡なバスケットセンスを持つオールラウンダー・萩原諒が攻守の要、クラッチシューター・細木建命、1年生ながら東部総体でもチームの窮地を救う救世主の活躍をした新藤穂月、ゴール下を守る屋台骨・岡本心真、抜群のキャプテンシーを持つ服部通尚をなどの戦力でまずは初戦突破して静岡商業との戦いに臨みたい。

このブロックの東部9位・松崎は7年ぶりの県総体出場となる。元々実力派のチームで3年生が1年次の県新人にも出場した実績を持つ。昨年度の東部新人では御殿場相手に苦杯を喫したが、今回は沼津中央に敗れただけの6勝1敗で県総体を勝ち取った。全部員が地元・松崎中学と西伊豆中学出身の旧知の仲、勝手知ったる仲間たちと息の合ったバスケットを展開する。

中心となるのはワシントンマーロン。兄は飛龍で活躍したワシントンケネス、姉も加藤学園の主力ワシントンジュリ、私も大会展望で何度も二人のプレーを絶賛し、ともにウインタープログラムの裏表紙に抜擢した。今回は末弟マーロンを絶賛させていただく。兄姉に負けない強靱なフィジカルと身体のパネは規格外の強さ、そして東部総体・誠恵戦での相手インサイド192cm中田舜と見せたゴール下のド派手なポジション争いに観客は大いに沸いた。ゴール下のパワープレーはもちろん、器用に外もこなすから相手には厄介極まりない。今大会でも強靱なフィジカルと猪突猛進のダッシュ力を見せてくれるに違いない。

その他にもシューター小川孝幸、ドライブやスピードだけでなく守備でもチームに貢献する服部翔天、キャプテンとして冷静に試合展開を体感しながらゲームコントロール・強気のドライ

ブにも味がある**白川紳**などポテンシャルの高い選手たちと今春着任した**熱血漢・大川晋太郎**監督の指導が絶妙にマッチし本来の実力を発揮したチーム、強豪・静岡商業相手にどのような戦いを見せるのか、特にマーロンと市川のド迫力マッチアップは想像しただけでも鳥肌が立つほどに心が躍り、今から試合が楽しみである。

その他の注目選手として、**鈴木海翔・山本鳳賀・江間真都・今部陽翔・二橋悠生・内山譲**（浜松工業）、**石塚泰梧・小倉颯太・山本来瑠寿・新村祐太・後藤日々航・石原琥太郎**（浜松湖北）、**渥美稜平・辻野陽向・野島煌羽・佐野裕章・原田峻・杉浦蓮**（浜松聖星）、**芦澤怜・細川生童・増田隼・南條蒼生・齋藤・天馬・牧田瑠次朗・栗田琳蔵・ナカノレイネル**（静岡大成）、**深澤昂士郎・佐藤優生・山田慎二**（韮山）などを挙げたい。

右下のブロックは県新人3位で東海新人にも出場した飛龍の実力が抜きん出ているが、県新人で中部新人3連覇の静岡商業を破り7位入賞、東部総体でも韮山との公立対決に快勝し3位で臨む三島北や公立高校で唯一昨年度の県新人から4大会連続でベスト8を維持し続ける浜松西も打倒・飛龍の下剋上を虎視眈々と狙っている。

飛龍は東部新人・県新人と連敗していた沼津中央に3度目の正直で10点差の勝利で東部総体7連覇を飾った。この試合や県新人・浜松学院戦、東海新人・桜丘戦で見せたような粘りのバスケットを継続的に見せられれば3年ぶりの優勝も決して夢ではない。2年目に入った**大石康史**監督・**原千容**コーチ・**勝又幸正**コーチのトロイカ体制による熱い指導と選手たちの気迫あふれるプレーの歯車が噛み合ってきた感がある。2年生部員が極端に少なく3年生主体のチームとなるが、個々にポテンシャルの高い選手が多く伸びしろ十分なチーム、特に試合後半での怒涛の勢いは他チームにとっては脅威となる。一時期は県外出身の選手が大多数を占めていたが体制が変わってからは県内のスカウティングにも力を入れている様子も見られる。

キャプテン・**竹村勇祐**は人一倍責任感が強く、クレバーかつ冷静に試合やチーム状況を分析できる大黒柱、司令塔としての重責も担う。中盤には一昨年の栃木国体でも中心選手として攻守で切れ味あるバスケットを見せた**小川優乃丞**や177cmと上背がない分、相手のブロックをかいくぐるために身体を密着させてシュートを打つなど身長差のハンデを克服してのプレーが目立つ3Pシューター・**ケビィエリィアス琉海**、同じく3Pシューターの**松浦光陽**、インサイドには先述の浜松学院戦ではチーム最多の17得点を決めるも東部総体は怪我で出場機会出来ず現在県総体に出場すべく練習に精進を重ねる**竹本雅矢**や東海新人でともにスタメン出場した**上門京太郎・大平颯汰**などバランスが取れた戦力を誇る。

その他、東海新人で途中出場、3P3本を含むチーム最多の13得点を挙げた**守谷珂偉**や成長著しい**秋山琳苑・岩戸翼**など多彩な戦力でストップザ藤枝明誠の最右翼として2年ぶりの東海総体出場、そして4年ぶりの優勝とインターハイ出場を射程圏内にとらえる。

2回戦での実現が予想される、素早いパスと多彩な攻撃が特徴の三島北と厚い選手層で積極的にメンバーチェンジを繰り返しても同じ強さで戦力を維持できる浜松西との東部王者への挑戦権を賭けた公立対決に今から期待が募る。

県新人7位・東部3位の**三島北**は伝統ある多彩なディフェンスと精度の高い外角からのシュートが特徴のチーム。とにかくこのチームはシュートが決まりだしたら止まらない勢いと東海総体出場経験もある長谷川泰一監督の熱い指導がマッチした魅力あふれるチームである。その急先鋒

が芹澤颯馬と濱田寛太郎。芹澤はインサイドもこなしながら積極的にアウトサイドも試み高確率で決めるシューター、私も公式戦で直接対決したが試合中に白旗を挙げたくなるほど決められた苦い思い出がよみがえる。濱田はドライブに行く判断が抜群に秀でたプレイヤーである。キャプテン・野田倭は司令塔として味方を生かし仲間を動かすプレーを実践できるクレバーな選手である。

同じく県新人7位・浜松西は安定した実力が特筆されることはもちろん、西部随一の足腰でコートにいる全員が1試合を通じてオールコートで堅守を維持できるディフェンス力を誇り、オフェンスでは個々がシュートセレクションに優れ、その状況でミドルがベストとジャッジすれば初志貫徹してシュートを打ち切る力を持つ。エース・増田健大が起点となりコート上を八面六臂にかけまわり、福澤生也が高いスコアリング能力でフィニッシュに持っていくのが方程式。山田悠睦・間宮怜央も高いリバウンド能力でゴール下を制覇、期待を込めてアドバイスをさせてもらえば、リバウンド後のセカンドチャンスをもう少し生かせれば勝機はさらに近づくように思われる。

飛龍と初戦で対戦する浜松南は浜北西との11位決定戦を制し「最後の1枠」を勝ち取り今大会男女通じて最長のインターバル期間となる9年ぶりの県総体出場を決めた。終始追いつがる浜北西に対し上手に時間を使いながら勝ち切った強いメンタルは称賛に値する。全員が鋭いドライブでカッティング出来る粒揃いのチームであるが、袴田人輝のゴール下に飛び込むようなドライブからのシュートは天下一品、それでも落ちた場合は高橋大成が体を張ってリバウンドに従事しセカンドショットに持ち込む。今回非常に厳しい組み合わせではあるが、最後まで諦めず自分たちのバスケットをして欲しい。

その他の注目選手として、川上遼賢・羽生田琉太・山田春太郎・堤寛大・亀野広翔(三島北)、百瀬暁・若原創太・増田脩人・徳田紘己・平山歩・八木心晴・中上智仁(静岡)、岩田悠司・井田翔太・鈴木仁・今田流威・水口陽翔・藤原陽輝・周梓俊(袋井商業)、平野琥太郎・稲葉一哲・数原颯人・長谷川颯大・荻野陽向・近藤丈太郎・白鳥稜真(東海大静岡翔洋)、櫻庭晴陽・石川琉斗・土屋愛翔・岡澤一颯・高藤功磨・川上大輝・土屋翔誠・服部虎士郎(加藤学園)、後藤颯仁・木村達平・南野滯(浜松南)、高柿翔・鈴木遥大・山田凌大・野中亮良・尾藤遙陽(浜松西)などを挙げたい。

【女子】

こちらは現在県内高校大会 22 連覇、151 連勝、8 年以上無双の強さを続ける浜松開誠館が戦力的に円熟期に到達、他の追随を許さない独走状態が続いている。しかしながら昨年度すべての県大会準優勝・市立沼津を筆頭に、各地区の上位校が独走だけは許すまいと追撃し、まずは東海総体出場、その上で県総体優勝を目指す構図が予想される。

左上のブロックはその浜松開誠館が絶対的大本命、そして絶対女王への挑戦権を賭けて 2 回戦で対戦が予想される西部 5 位・浜松南と中部 2 位・常葉大常葉などがしのぎを削る展開となる。

またしても圧倒的な強さで県新人 7 連覇を果たした**浜松開誠館**は東海新人初戦で粘り強さが信条の三重 2 位・いなべ総合学園に快勝したが、続く準決勝でウインター準優勝の岐阜女子、続く 3 位決定戦でウインターにも出場した星城（愛知）に連敗、4 位に終わった。県新人・東海新人とエース・後藤を負傷で欠く苦しい台所事情での戦いとなったが、代わりに出場機会を与えられた選手や後藤によるベンチからの適切な声掛けなど得るものも多い大会だった。

そのエース・178 cm**後藤音羽**は負傷も癒えて戦線復帰、この春 U17 の日本代表候補にも選ばれて強化合宿に参加、7 月にメキシコで開催される「FIBA U17 女子ワールドカップ 2024」に昨年の U16 アジア選手権に続き、日の丸を背負っての出場も見えてきた。しかも「アジア」から「世界」に堂々のステップアップ、全国的にも注目を集める静岡県の宝でもある。オールラウンダーであるのは言うまでもなく、長身を生かしてリバウンドやゴール下で貢献するだけでなく外角からのドライブにも磨きがかかり、適切な状況判断力も加わり内外角問わずに攻められるポイントゲッターとなった。いつでも謙虚な姿勢を忘れず真摯に練習に取り組む姿まで後輩の手本となる人格的にも優れた選手、この選手のプレーを多くの方々に見てもらいたい。

ミニバスでも全国を経験、中学時代はキャプテンとして全中・Jr ウインター 2 冠、輝かしい実績を引き上げて入部、その実績に違わない素晴らしいテクニックで私たちを魅了する**井口姫愛**も全国注目の選手、試合の流れを読みながらペネトレーション、味方にバスをさばきながらのここぞの場面では高確率で 3 P を決める勝負強さが光る。強い闘争心を胸に秘め、試合中には負けず嫌いな面も見える闘志のプレーヤー、星城戦では劣勢の中ひとり気を吐き孤軍奮闘、3 P 7 本を含む 23 得点を挙げて次につなげる戦いをした頼もしい存在である。

前川桃花は中学時代から井口の後輩としてその後姿を手本としながらプレーを続ける。全中連覇も経験、多くの修羅場をくぐり抜けた豊富な経験値と確かな練習量に裏打ちされた堅いディフェンスが武器ではあるが攻撃面もさらに充実、県新人決勝リーグでは 3 試合で 3 P 9 本を含む 64 得点、急成長を見せた。元来ドライブや 3 P を器用にこなす選手であったがシュートの精度が一段と上がり、攻守でチームに貢献する理想的な選手に育ってきた。

後藤が怪我で不在の中、ゴール下を任されてその責務をきちんと果たしたのが 175 cm・杉山実子。県新人では途中出場が続いたが優勝決定戦・市立沼津戦でスタメン出場、相当な重圧を受けながらも自分の信じるバスケットをコートで体現、その姿勢を指揮官が見逃すはずもなく東海新人では 3 試合すべてスタメン出場、東海の強豪相手に 27 点を奪った。このかけがえのない経験は今後必ず生きてくるはずである。

今年に入ってレギュラーを掴んだのが**八重柏憂奈**と**細田栞愛**。八重柏は昨年の夏から急成長、中盤を任されて内外問わず器用にこなすどこからでも得点が取れる器用な選手、もともと 3 P の正確さには定評があったが力強いポストプレーも見せるようになり、いなべ総合学園戦では 14 リバウンド、外からのグッドパスや中からのアウトレットも冴え 5 アシストを稼ぐ活躍を見せた。

細田は171 cmの長身を生かしたゴール下のリバウンドが安定、東海新人全試合スタメン出場、強豪相手に1試合平均10リバウンドを記録、後藤・杉山とともに近年強さの代名詞となっている高さに貢献する選手となった。

その他にも、市立沼津戦でスタメン出場・粘り強いディフェンスと鋭いドライブからのジャンプシュートを得意とする**山本さくら**、貴重なシックスマンとしてチームのピンチに投入され窮地を救う**大杉光**、県新人決勝リーグ全試合に途中出場・2試合で得点も決めた**平野絢音**・**中津川夢花**など今年もどのチームよりも厚く多彩な戦力、高さを生かしたバスケット、さらにその外回りも含めてどこからでも長距離砲を放てるのが今年の強み、粘り強さと常に変化していく堅実なディフェンスで連勝を伸ばして大会8連覇、そして昨年岐阜女子を倒しながらも準優勝に泣いた東海総体の初制覇、さらにその先のインターハイでは初の全国4強以上を狙う。

新戦力にも少し触れてみたい。今年が目玉は何と言っても鮮やかすぎる速攻が魅力の攻撃型ガード・**牧田知紘**。長野伊那中学で出場した全中、GOLDEN PHOENIXとして出場したJr. ウィンターとともに全国ベスト8、司令塔の大役を任せられ鋭いドライブで攻撃の起点となった。随所で見せるピック&ロールも完成度が高く、特にJr. ウィンターでは全試合フルタイム出場を果たし無尽蔵のスタミナを披露し、全国4強以上を目標とする浜松開誠館にとって大きな補強、まさに今年イチ押しの「見るべきルーキー」である。また昨年度全中・Jr. ウィンターともに3位の四日市メリノール学院中学から**垣内優希奈**も入学、こちらも即戦力の器であることは間違いない。

その浜松開誠館と初戦で戦うのは平成20年の学校創立以来初出場となる**下田**。冬の新人戦で一足先に東部8位で初出場を果たしたが、東部総体では桐陽・加藤学園に敗れて伊豆中央との最後の一枠争いとなる11位決定戦に回る薄氷の展開、最後は自分たちを信じる落ち着いたバスケットで大願成就を果たした。司令塔の**高橋夢花**、インサイドを担う**川端穂積**、相手守備の隙を突いてターンオーバーを誘発する**森心明**などを中心に、自分たちが信じて続けてきた練習が常勝女王にどこまで通じるのか、思い切り立ち向かって欲しい。

浜松南は県新人で浜松開誠館に敗れただけの4勝1敗で見事5位、しかしながら西部総体では中部新人・県新人で連勝した浜松商業に惜敗し西部5位で今大会に臨む。昨年から続く両ウイングからスピードに乗ったドライブでの攻めは健在、ディフェンスも固く相手の出方を見極めながら必要に応じて瞬時にフォーメーションを変えるチェンジングも効果的に機能する。司令塔として得意の3Pだけでなくパスランでの攻撃を組み立ててチームに勝利をもたらす**山村梨心**と県新人・浜松商業戦では3P2本を含む19得点、特にプレッシャーがかかる試合でフリースロー7本を落ち着いて決めてチームの勝利を引き寄せた**輿水想来**を中心に、インサイドにボールを集めて仲間に合わせのパス、時には自身が力強く決めるゴール下の得点源・**吉田遥**、3P・ドライブ・ミートシュートすべてそつなくこなす**新林芽依**・**鷹野瑠美**、そしてチーム一の長身169 cmを上手に使ったオールラウンドな攻めが目立つ**若林鈴音**などの面々で、西部総体で対戦出来なかった浜松開誠館との戦いに歩を進めたい。

常葉大常葉は県新人で浜松商業に敗れベスト16に留まった悔しさを今大会にぶつける。中部総体決勝で東海大静岡翔洋に敗れたものの伝統のステイローを徹底した堅守速攻は健在、攻撃ではサイズ感がありながらもスピードあふれるランプレーと、守備では臨機応変にヘルプやスイッチを行う様子が見られた。キャプテン・**伊藤亜莉沙**は長いリーチを生かしたリバウンドを得意とし、持ち前の跳躍力で高い地点でファーストチップをしてセカンドチャンスに導き、オフェンスでは3Pや角度のないところでフックシュートも放つ。怪我のため決勝戦は出られなかったが

植田柚希は激しい寄りのディフェンスで相手にタフショットの選択をさせて果敢にブロックを挑む。室伏理緒は県内最高身長 179 cmの長身を生かしたりバウンドだけでなく、外からのシュートや鍛えられた腕力を生かしたロングパスを見せる。ディフェンスの要は池田愛央衣、インテシブなディフェンスでボールを奪い得点につなげるいぶし銀。鍛え抜かれたメンバーで浜松南との戦いを堅守のロースコアで勝ち抜きたい。

その他の注目選手として、小幡美空・橋本瑠那・岡田美紀・持田莉子・大久保愛姫(浜松開誠館)、神尾美月・菅野小波・西村結菜(下田)、丸山真央・山下美優・塩坂彩菜・大畑こま・栗田恋羽・出口愛琉(静岡大成)、石田琴音・飯田綾見・高屋敷里帆・平野ひまり・窪田陽菜(三島北)、水鳥心羽・中嶋夢月・村松奈々・坪井雪羽・山口琴乃音・佐野莉咲(富士宮東)、梅本理世・若山紗羽・河合桜・三浦羽菜・渋谷彩桜・坪内杏香里(静岡)、島田光香・萩原静香(浜松南)、森輝月・大坂滯・佐野麻帆(常葉大常葉)などを挙げたい。

左下のブロックは実力伯仲の兵(つわもの)が揃う激戦区、「群雄割拠のグループ」と言える。その中でも中部総体覇者の東海大静岡翔洋が頭一つ抜け出し、それを西部3位・県新人6位の浜松商業、中部4位の藤枝順心、東部4位の三島南が猛追する様相を呈している。

第4シード・東海大静岡翔洋は中部新人初優勝で臨んだ県新人、初の決勝リーグ進出を果たしたが勝利を挙げられず4位、東海新人出場も逃した。控室付近で無念の気持ちを抑えきれずすすり泣く選手たちの姿を見て私も胸が痛くなる思いであった。今春選手時代にインターハイ出場の経験もある大島美代之監督が就任、新体制となって新たなスタートを切った。県新人では決勝リーグの平均得点42点に象徴されるように得点力不足が敗戦の一因だったが、中部総体では安定して全試合60点以上、準決勝でも静岡東に18点差、決勝でも常葉大常葉に19点差をつけて危なげなく2年ぶりの優勝を飾った。特に決勝では前半の一進一退の攻防から後半一気に攻めのバスケットに転じ、オールコートプレスでプレッシャーをかけて相手のミスを誘発させてドライブで得点を重ねる見事なゲーム運びはまさに「快勝」のゲームだった。

この試合特に光ったのは一見陽菜、力強いリバウンドや鋭いドライブからの得点だけでなく、広い視野からの判断能力も高く、多彩な攻撃バリエーションを見せてくれた。青島由來は155 cmの小柄ながらアグレッシブな捨て身のディフェンスが功を奏し、持ち味のスピードも冴えていた。

そして何と言っても大黒柱は昨年国体予備選手にも選ばれた2年生・175 cm稲葉叶。私はこの選手を非常に高く評価している。ボールをキープしている時のオフェンス能力もちろん、オフボール中の緻密かつ献身的な動き、そしてディフェンス時、片目でボールマンもう一方の目でマークマンをとらえているかのような動きは天下一品、あの絶妙な間合いでは相手はドライブに行くにも行けない暗黙のプレッシャーに悩まされるはず、エコパアリーナのコートで是非見てもらいたい選手である。

その他にも、相手の出鼻をくじく3Pを試合序盤から容赦なく決めて流れを自軍に持ってくる山内楓、中部決勝でもドライブ中心にチーム最多タイの14得点を決めた北川伶奈、中部決勝で華麗にバスケットカウントを決めた花枝咲和、3Pでもドライブでもと得点が取れる貴重な選手・星合汐風など誰からもどこからでもドライブで得点できる強力な布陣でまずは2年ぶりのベスト4、そしてインターハイに出場した平成29年以来6大会ぶりの東海総体出場を決めて、無敵王者・浜松開誠館に挑みたい。

2年ぶりの4強入りを狙うためにまずは2回戦で予想される堅守速攻を信条とする東部4

位・三島南との戦いを乗り切る必要がある。ワンランク、いやツーランク上の技術を持ち、勝又・河谷（市立沼津）向井（沼津商業）後藤（沼津中央）と並び、東部を代表する選手・辻村明日花の怪我から完全復調した万全のプレーには中部王者としても細心の警戒心を払う必要がある。

中部王者・東海大静岡翔洋に準々決勝で挑むのは2回戦で対戦が予想される浜松商業―藤枝順心戦の勝者となる。

浜松商業は西部4位で出場した県新人2回戦で中部2位・常葉大常葉に33点差をつける圧勝、5位決定トーナメントでも沼津商業相手に1点差で接戦を勝ち切った。西部新人3位決定戦の再現カードとなった浜松南戦では相手の猛攻に屈したものの創部以来最高・県6位の好成績を残した。今回の西部総体では準々決勝で浜松南と再戦、11点差でリベンジを果たし3位決定戦でも浜松聖星の猛追を振り切りこちらも最高順位西部3位で今大会に臨む。予選の勢いを見ると今大会「台風の目」になる可能性は十分ある。

私が見た県新人・浜松南戦では山田千恵・大場優菜・三浦綾夏の3選手が特に目をひき、この3選手で全67得点中52点を挙げる大活躍、特に三浦の動きには驚かされた。171cmの恵まれた体格を上手に使い、時には高さで勝負、パスを回す、そして器用に3Pも決める。さらに浜松南が事前に対策を講じてボールを持った瞬間にプレスをかけに来ても無理にタフショットに行かずボールを早めにフリー選手にさばき、それでも行けると確信した時には果敢にシュートを放ち得点を重ねた。先述の常葉大常葉戦でも36得点、特に第3Qにはフリースロー7本を決める大活躍を見せた。さらにはスピードもスタミナもある選手なのでどのチームも対応に苦慮するであろう。山田と大場は終始コート縦横無尽に走りまわり、チャンスがあれば果敢に外からでも勝負に出る度胸満点の選手である。

その他にも、谷野有彩・西塚夕愛・原田りの・小関若菜もスタメンに名を連ねて厚い選手層を誇る。まずは準々決勝に進出し、予想される東海大静岡翔洋相手にランゲームを交えた堅守のバスケットが出来れば最大の目標である県4強も夢ではない。

昨年の県総体5位・藤枝順心は中部総体では4位にとどまったが、効果的に見せるゾーンディフェンスで相手を幻惑させるバスケットが特徴、相手が順応してくるとマンツーマンに戻すタイミングも絶妙である。相手に「寄りのディフェンス」を誘い出し、フリースペースを作ってすかさずシュートを打つのが攻撃パターン、随所にバスケットの上手さを感じさせる。高さで長いリーチを生かして力強いリバウンドから得点を決める献身的プレーヤーの石田妃菜里、鋭いドライブからの合わせや周囲を生かしたプレーを引き出せるインサイドワークと強心臓なプレーが魅力の増井弥空、巧みなステップと広いストライドで切れ込むドライブが持ち味の池紫寿、スクリーナーとしてユーザーを出来るだけショートカットさせながらゴールに切れ込ませるプレーが目を引き杉山未緒など、昨年の戦力に引けを取らないものを持つ。浜松商業との戦いは序盤から相手を突き放す一方的な展開に持っていきたいところである。

下田とともに今大会初出場となる東部7位・桐陽もこのブロック。1月の県新人にも東部9位で出場、今回はさらに順位を上げて堂々県総体の檜舞台に初登場する。高身長選手が揃いスタメンの平均身長は166cm、その高さで全員がゴールを狙う積極的な姿勢を武器に初出場初勝利を狙う。エース・遠藤優奈は落ち着いたゲームコントロールでチーム全体にリズムを生み出し献身的なディフェンスも魅力の選手。中学時代にJr. ウインター出場経験もある河谷唯は姉・河谷真矢（市立沼津）にも負けない柔軟なフィジカルが特徴、長い手足を生かし相手オフェンスより一

歩早くコースに入りシリンダーを確保してシュートを封じるプレーも見せる。他にも中学時代県選抜の経験を持つ**芹澤もか**、チームのムードメーカー・**薄井衣緒菜**などの戦力で中部4位・藤枝順心に立ち向かう。

その他の注目選手として、**望月凜**・**羽石あずみ**・**森理桃子**・**森理彩子**(東海大静岡翔洋)、**清水恭花**・**高田千夏**・**清水花純**・**関本咲良**・**中西葵夏**(御殿場南)、**宮住美桃**・**大月耶奈実**・**小池果寿**(藤枝順心)、**進藤亜未唯**・**寺田晴香**・**久保田珠蓮**(桐陽)、**伊藤栞奈**・**塩崎日向**・**遠藤陽菜**・**菅野陽向**・**清水佐和**・**宮城島夢子**(清水南)、**五十嵐愛生**・**鈴木楓花**・**中島心遥**・**鈴木沙綾**・**萩原葵**・**加藤真衣**(磐田北)、**御手洗寿奈**・**勝部真菜**・**足立結菜**・**伊澤せり**・**渡邊結衣**・**深瀬柚月**(三島南)、**中野芽衣**・**原田玲早**(浜松商業)などを挙げたい。

右上のブロックは、西部総体で浜松開誠館と好勝負を繰り広げた浜松学院が実力的にも抜けている感があるが、東部3位の沼津中央や西部4位の浜松聖星も決して侮れない。

浜松学院は昨年の県総体4位で東海総体出場を逃したが、ウインター県予選・県新人ともに3位をキープ、2大会ぶりに出場した東海新人では愛知2位の安城学園を常に一桁得点差で追う接戦を演じ、最終的には7点差で惜敗したが東海ブロックでも十分通じる実力の片輪を見せた。今大会は大黒柱の173 cm**ワネケジジュリエット杏奈**を怪我で欠く厳しい布陣ではあるが、エースの欠場を埋めるべく後進が着々と育っているのも頼もしい。大型インサイドを多く揃え、バスケットの基本に立ち返ったポストプレーが多く見られること、そしてディフェンスからリズムを作り選手個々の能力を生かしたオフェンスにつなげることがチームの特色である。

西部総体を見ていると、スタートから175 cm**高山璃世**・173 cm**荒井香実**・170 cm**足立珊瑚**が制空権を支配、交代要員にも175 cm・**篠原美咲**・170 cm**太田綾夢**・**袴田千愛**など大型選手が居並ぶ。試合中相手のディフェンス意識がインサイドに集中すれば、東海新人で3 P 4本を含む21得点を奪ったトランジションの要・**相川樹由**が隙を逃さずアウトサイドプレーを仕掛け得点を決める。中盤の**守山ひかり**はスタートから果敢に3 Pを狙い、西部総体・浜松聖星戦では4本の3 Pを決めた。大型選手も運動量が落ちることなく、内外とも器用にプレーが出来て多数のシュート機会を作り出し攻めることが出来るチームである。足立は今さら説明もいらない一流選手、県新人決勝リーグ3試合でも3 P 6本を含む51得点、東海新人ではどれも絶妙なアシストを3本決めた。得点能力・リバウンド技術・パスのタイミング、すべてが一級品の技術、バスケット選手が一度は達成してみたいトリプルダブルに一番近い選手とも言える。

その他にも、ディフェンスのスペシャリスト・**伊藤帆南**、3 Pシューター・**田開瑚生**、東海新人にも途中出場した**高柳亜知葉**・**出口愛珠**など1年から3年まですべての学年均等に戦力が分散する厚い選手層を誇る。まずはきちんと準決勝まで昇り詰め、そこから2年ぶりの東海総体出場、そして西部総体決勝で敗れた浜松開誠館を倒して初優勝、インターハイ初出場を掴みたい。

その浜松学院と初戦で対戦するのは2年ぶりに県総体の晴れ舞台に戻ってきた**駿河総合**。平成25年の学校創立以来平成末期を疾風のように駆け抜けてインターハイ出場2回・東海総体出場4回・東海新人出場4回・ウインター県予選準優勝3回という輝かしい実績を残してきたが近年部員数が急激に減少、令和4年度の中部新人は選手5人というギリギリの人数で出場したが予選敗退、以後県大会出場を果たせずにいた。しかし徐々に部員も増えて普段の練習や戦術のバリエーションも多くなり、今回島田商業を倒し中部10位、悲願の県切符を手に入れた。現役の県立高校指導者として唯一全国大会出場の実績(3回)を誇る**立野幹夫**監督が粘り強く指導して2年

余り、ようやく実を結んだ。速いトランジションからカッティングやドライブで攻撃を組み立てることが徹底されたバスケット、果敢に走りきるドライブが魅力の**岩田蒼未**を中心に、巧みなロッカーモーションやミートシュートを披露する**石上七菜**、ローポストで勝負強さを発揮するだけでなく鋭角に切れ込むドライブも冴える**天野なつき**、スピードが生命線**の中野春風**、そしてチームの精神的支柱である**島村梨央**などのメンバーで県総体の舞台に立つ。

浜松学院と準々決勝での挑戦権を賭けて2回戦での対戦が予想されるのは西部4位・浜松聖星と東部3位の沼津中央。

県新人7位・**浜松聖星**は西部総体で浜松学院・浜松商業に惜敗したが、昨年の県総体は3位で東海総体初出場、三重2位のいなべ総合学園とオーバータイムの死闘を繰り広げた強豪、今大会でも各チームにとって油断の出来ない相手である。外枠シードチームと比べると決して大柄ではないが、攻守ともにインサイドで体を張ったプレーで相手と競り合うチーム、試合終盤など緊張感がコートに走る中でも、気負いを感じさせない平常心でのプレーが目立つ。実戦を重ねてプレーに味が出来てきた頭脳派キャプテン・**大竹花**、ディフェンスの隙間をこじ開けるドライブで突破口を作る**三井亜利華**、広範囲のシュートレンジを持ち、ゴール下・ミドル・3Pとオフェンスのバリエーションが多彩な**高下加奈**などが主力選手だが、このチーム最大の武器は誰もがどこからでも3Pを決められるスキルがあること、浜松学院戦では高下・大竹に加えて、**長谷川万桜**・**室内柚華**・**長坂莉緒**・**森美希奈**の6人が合計9本の3Pを決めた。得意の空中戦で沼津中央を倒し浜松学院との再戦にこぎつけて勝利を飾り、2年連続の東海総体出場に前進したい。

対する**沼津中央**は東部総体3位決定戦で三島南を下し、久しぶりの予選上位で今大会に臨む。東部新人5位で臨んだ県新人では浜松市立を倒してベスト16、東部総体では準決勝で市立沼津と好勝負を演じて最終的に3位に食い込み、まずは今大会7年ぶりのベスト8を目標とする。エース・**後藤さつき**は172cmの長身を利したプレーの数々で観客を魅了する。三島南戦・辻村との東部を代表する選手同士のハイレベルなマッチアップは東部総体のハイライトだった。その他にも県新人・市立沼津戦でチーム最多の26得点を挙げた**江川凧**、理論に裏付けされたプレーが魅力の**見原楓七**、すべてのプレーに全身全霊で取り組む**依田愛巳**などの戦力で、日頃の練習で磨いた的確な判断能力を生かしたインテリジェンスバスケットでエコパアリーナにたどり着きたい。

このブロックの**飛龍**は16大会連続出場の常連校、東部5位での出場も不思議ではない実力派チームだが、近年部員不足に悩むこともあり昨年の新人戦は地区予選で敗退し、県新人に出場が出来なかった。したがって今回の東部総体では予選リーグからノーシードで出場、準々決勝で沼津中央に敗れただけの6勝1敗、特に三島北との5位決定戦も延長の末に制して県新人に出場できなかった雪辱を果たした。**岩見果穂**・**鈴木真花**・**富高華音**・**近藤湖都**などの3年生とフォワードの2年生・**鈴木娃賀**を中心に全員バスケットでまずは西部7位・浜松湖南戦に勝利して5年ぶりの初戦突破、そして次の浜松学院戦に臨みたい。

その他の注目選手として、**青木蘭**・**見崎ひなた**・**岩堀未羽**・**青野愛琉**(駿河総合)、**廻久美子**・**小久保美波**・**金子ひまり**・**刑部樹俐**・**杉田佳奈美**・**石垣栞**(浜松湖南)、**望月優那**(3年生)・**小泉美奈子**・**曾根未菜**・**小川心優**・**大出柚葉**・**望月優那**(2年生)(静岡女子)、**藤倉華音**・**山崎琴音**・**田村悠香**・**大竹里奈**・**野田亜澄香**・**藤倉琴音**(加藤学園)、**栗崎きらら**・**金子末杏**・**岩田楓**・**浅田海**(沼津中央)、**鈴木真花**・**篠原由愛**(飛龍)、**サリッチ愛奈**・**岡部玲那**・**中西杏奈**(浜松聖星)などを挙げたい。

右下ブロックは長年追いつけたライバル・市立沼津を公式戦で初めて倒して地区大会初優勝、市立沼津の東部総体 17 連覇を阻止した沼津商業と、決勝で敗れて連覇は途切れたものの実力は折り紙付き、一昨年度の県新人から 4 大会連続で県大会準優勝を続ける市立沼津が準々決勝で再戦する可能性が高い。沼津商業がわずか 3 点差で悲願の勝利を飾ってからわずか 2 週間、ゴールデンカードの再戦が見られることに今から心が躍る気分である。しかしながらこのブロックは静岡東、静岡商業、浜松日体など強豪チームがひしめき合う「死のブロック」、2 強も安閑としてられない戦いが待ち受ける。

沼津商業は令和 2 年度の東部新人から 7 回連続地区大会決勝で市立沼津に挑み、1 点差での惜敗や時にはオーバータイムまで持ち込みながらも敗れるなど「近くて遠い永遠のライバル」を倒すことがチームの悲願であった。地区大会にとどまらず、県大会上位戦でも対戦しては惜敗したこともあり、今回の勝利は選手・指導者の留飲を下げるだけでなく、例えようのない喜びとなったはずである。全員ディフェンスから速攻へつなげる速い攻守の切り換えがチームの特徴であることは変わらないが、加えて東部総体では市立沼津戦で象徴されるように「粘り強さ」が随所に見られて総合力の完成度が高まった。一時は市立沼津に 18 点リードされて試合も決まりかける雰囲気は漂う中、そこから全員ディフェンスで追いつき 4 Q 残り 2 分で同点に追いつき、さらに最後まで果敢にゴールを狙い、相手ファウルから得たフリースローを確実に決めて 3 点差で勝利を飾った沼津商業の力強さは相手の脳裏にも焼き付き、再戦にも影響を与える可能性がある。

このチームの特色は誰がエースで誰が大黒柱などとカテゴライズするのではなく、コート上の 5 人がお互いの責務を果たしながら困ったときには積極的にヘルプディフェンスにも走る全員バスケのチーム、その中でも県協会 U15 優秀選手受賞歴があり、持ち前のシュート力が武器の頼れるキャプテン・**庄司奈納**は足の怪我をおして不退転の決意で出場した市立沼津戦で見せた鬼気迫るプレーは感動を呼んだ。

スピードあふれる司令塔・**向井京**は前回展望ではシュートを褒めたが、今回は味方も幻惑されるくらいに絶妙なアシストパスを絶賛したい。**梅原柚月**は独特なリズムから 1on1 を仕掛けるが巧みなジャブステップなどのフェイクに相手が食いつく瞬間を逃さない。敢えて言えばこのトリオが今年の中核、得点は向井・梅原が量産する。

その他にも 3 P シューターとしてだけでなくハードで粘りのあるディフェンスも取り柄の**稲田楓羽**、偉大なる大先輩・鈴木の跡を任されて 170cm の長身を生かして献身的にゴール下で攻守に奮闘する**白井碧**、市立沼津戦・ミスマッチになりながらも相手センターを捨て身の姿勢で必死に防御した**江藤碧音**などを中心に、決して厚い選手層ではないが**齋藤さゆり**監督の指示を熱心に聞き入れそれを愚直にコート上で表現する「沼商バスケ」で市立沼津を返り討ちにし、初の県大会 4 強、そして東海総体出場を手中にしたい。そのためにもまずは初日 2 回戦での対戦が予想される静岡商業 vs 浜松日体戦の勝者との対戦を盤石に乗り切らなければならない。

対する**市立沼津**は県新人準優勝、東海新人でもウインターに出場した星城にも善戦し今回も打倒・浜松開誠館の一番手になるかと思われたが東部総体決勝で沼津商業に悪夢の逆転負け、今大会は背水の陣で臨む。お互い順調に勝ち上がれば準々決勝で再戦する組み合わせ、大会までの 2 週間どんな気持ちでどんな練習をして来たかの真価が問われる大会となる。

パスランや鋭いドライブからの激しい攻めを主体とし、個々の 1on1 の能力が非常に高く、どこからでも得点が取れて粘り強いディフェンスから小気味よいリズムで攻撃を仕掛けるバスケット、その中心となるのが昨年の県協会 U18 優秀選手・**河谷真矢**。身体能力の高さ・ウイング

スパンの長さはすでに書き尽くしたので今回は柔軟な膝の伸縮と肩幅より大きく開くリバウンド時のストライドを絶賛したい。重心の安定化、そしてシュートにつなげる際に膝を使って跳躍力をつける意図が伝わってくる。リバウンドシュート時も肘が胸より下がらず視線は常にリング、基礎基本を忠実にそしてハイレベルに応用できる選手である。同じく昨年来から主力を務める**勝亦麻結**は初動スピードを生かしたドライブと柔らかいスナップで放つ3Pが持ち味、東海新人でも3P2本を含む19得点を決めた。

2年生・**野田志**は入学当初から主力として活躍、恵まれたバスケセンスと巧みなボールハンドリングで積極的にゴールを狙う。特に県新人・東海大翔洋戦ではチームタイの19得点、ウイング位置やエルボー付近、時にはショートコーナーからもシュートを決める。県新人と東海新人で新たにスターティングファイブに入ったのは**米内心菜**と**常房心瑠**。ともにそれぞれ163cm・157cm、背が高い選手が目立つチームの中でお世辞にも長身とは言えないが、米内はドライブからのジャンプシュートに、常房は一步距離を詰めたプレッシャーディフェンスに境地を見出す。特に常房は東海新人でも12得点、常時得点に絡める選手になってきた。

そしてこのチームのスーパーサブ・切り札を紹介したい。170cm**外川あこ**、県新人決勝リーグ全試合途中出場で3P3本を含む26得点、東海新人では浜松開誠館にも勝利した星城相手にこちらも途中出場で3P2本を含むチーム最多の20得点を挙げた。県総体ではどのような起用法となるかわからないが、競った展開で彼女が出てくると相手にかかるプレッシャーは想像を絶するものとなる。

その他にも、**岩田真奈**など市立沼津中等部時代に全中やJr. オールスターに出場した選手が多く入部、フレッシュな力と現存勢力を混ぜ合わせて沼津商業にリベンジ、4年連続の東海総体出場、そして11年ぶりの優勝を目指す。

その市立沼津は沼津商業と対戦するためには中部3位の**静岡東**に勝たなければならない。静岡東は新チームで臨んだ昨年のウインター県予選で見事ベスト8入り、中部総体では新人戦・2点差で敗れた静岡商業にリベンジ、3位決定戦では3Pを武器に藤枝順心とのめまぐるしいシーズンゲームを2点差で制した。近年急激に部員が増え、正式なデータを確認出来てないが女子では県内最多ではないかと思われる42名の部員を有する。オールコートプレスを主体とした守備のチームでベンチメンバーが状況に応じて積極的に稼働する全員バスケが特徴、多彩なディフェンスも特徴でマンツーマンから状況に応じて即座にダブルチームに移るなど、チームの約束事が周知徹底されていてそれを試合で実践できる強みを持つ。

1on1の強さと流れを見極めて放つ3Pが魅力のキャプテン・**栗田志織**を筆頭にボールキープ能力にたけて渋いアシストも繰り出す**佐藤蓮乃**、そして藤枝順心戦3P3本を含む19得点、ドライブも長距離砲も決められるオールラウンダー・**小柳真実**など数だけでなく質も一級品の戦力で市立沼津に挑む。

1回戦の注目カードとして、「**静岡商業－浜松日体戦**」を挙げたい。ともに県新人初戦突破した実力派同士の対決、速いトランジションによるプッシュでボールを瞬く間にゴールへ運ぶエース・**山田芽以**や静岡大成戦で5本の3Pを含む28得点を叩き出したスコアラー・**増田悠伽**、3P狙いに徹する職人肌の**杉山花音**を中心に、得意の速攻と効果的なパス回し、そして固いディフェンスと高確率の3Pで中部総体5位となった**静岡商業**と、ディフェンスからリズムを作り早い展開に持ち込むのがお家芸、**五味優花**のドライブや**辻玲奈**のインサイドプレーも魅力、チームとしては1on1のディフェンスが固く、**高橋倅菜**や**横山わかば**のフロント陣がチャンスと見るやすかさずダブルチームを仕掛けて先手を制してボールをスティールし得点につなげる展開が特

色の西部6位・浜松日体の対戦は初日から会場を沸かせるだろう。

その他の注目選手として、上原美桜・杉山萌唯(市立沼津)、山崎実琉愛・小山愛加・西浦李虹・山田彩耶・柴本有紗・山下寧々(浜松東)、石濱怜・鈴木萌花・今西莉子・高橋弥恵・伊藤かすみ・藤井ひより(浜松市立)、近藤美渚・高橋詠美(浜松日体)、永見みずほ・河村南美・彦坂好胡・山脇心渚・飯尾心美・河村菜々美(浜松北)、臼井小夏・三浦咲(沼津商業)、中山志緒梨・落合美雨・小杉凜・清水柚菜・阿多海尋(静岡商業)、山本寧々・望月美空・廣田美優・杉山莉彩(静岡東)などを挙げたい。